

2013年度も、常勤は庄野1名で、済生会熊本病院心臓血管外科佐々医師が2回/月、外来で応援を行った。担当した入院患者数は前年度の207名から251名と増加した。高齢者の心不全（再入院を含む）の増加もあるが、脳外科医師減少に伴う脳血管疾患患者の担当が影響している。

当院の地域の高齢化率は35%を超えており、当科で担当した入院例では、平均年齢80±11歳（中央値82歳）であった。65歳以上の高齢者は実に92%であった、担当した65歳未満の20例の中では脳血管疾患が9例含まれており、内6例は脳出血であった。

入院の内訳は、心不全が最も多く71例であった。心不全例の年齢はさらに高く、平均84歳であった。死亡は6例のうち5例は85歳以上の超高齢であった。心不全の詳細を見ると、虚血性心疾患10例、心筋症10例、弁膜症10例となっており、心房細動の合併は23例（34%）みられた。

急性冠症候群や安定狭心症の多くは熊本病院へ紹介しているため少ないが、入院では急性心筋梗塞7例、狭心症、陳旧性心筋梗塞（OMI）は3例のみであった。不整脈5例、血管疾患6例、弁膜症では高齢の大動脈弁狭窄症が心不全で入院する例が増加している。肺塞栓症は3例（うち1例はCPAで来院し、リカバー後済生会熊本病院へ転送）であった。

急性心筋梗塞は16例（CPA0A7例を除く）であり、うち7例を熊本病院に搬送して急性期治療を行った。急性大動脈解離は6例（CPA3例）であった。2013年度は急性心筋梗塞、急性大動脈解離ともに前年度に比べて少ない1年だった。急性心不全は全例、当院で入院治療を行った。71例と担当した患者の中で最も多かった。（表1）

（例）

急性心筋梗塞（CPA、転送を含む）	23
急性大動脈解離（CPAを含む）	6
心不全	71
不整脈	5
狭心症、OMI	10
血管疾患	6
弁膜症	18

循環器疾患以外では、脳外科医師の退職に伴い、脳血管疾患を44例担当した。慢性腎臓病などの腎泌尿器系の疾患が13例、糖尿病などの代謝疾患、脱水やめまいなどの疾患もカバーした。

一方外来診療では、周囲の診療所の閉鎖などの影響があり徐々にフォローすべき患者さんが増加していて、毎月約900～1000人の患者の診療を行った。

循環器関連の検査はほぼ例年並みであった。（表2）

（件）

	2012年度	2013年度
心エコー	1,889	1,776
負荷エコー	33	20
トレッドミル	70	72
ホルター	130	140
頸部血管エコー	218	232
下肢血管エコー	263	237
ABI	251	278
心臓CT	22	35
血管CT, MRI	153	123

循環器関連で行った検査では、前年に比べ心臓CTが増加している。これは2012年秋に64列のCTが導入されたことが大きく影響したと考えている。

